NIE全国大会 神戸大会 ポスターセッション

○○（まるまる）教育を包括した学年通信の提案と実践

兵庫県立伊川谷高等学校 主幹教諭（NIEアドバイザー） 福田 浩三

1. 問題の所在

教育内容の多様化に伴い、教育現場では「国際理解教育」「ICT教育」「人権学習教育」「食育」「安全教育」「新聞教育」など、様々な「○○教育」が増加の一途である。教育現場においてこれら増え続ける「○○教育」を学習内容の質を確保しつつ、生徒への定着を図るために継続して実施するには、生徒への学習時間の確保や教員の学習準備に費やす負担など、解消すべき問題が存在する。

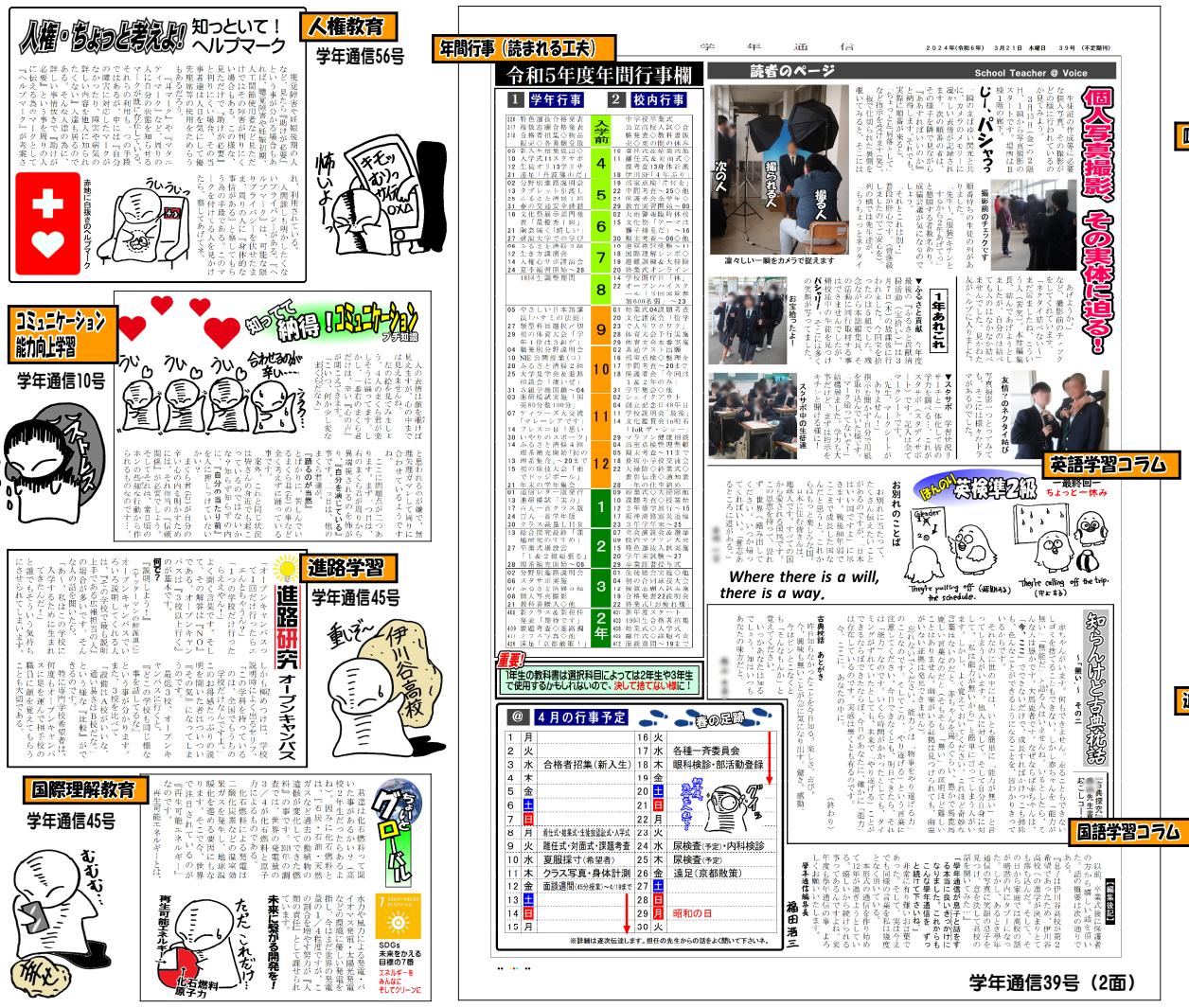
2. 研究の目的

教育現場における教員の負担を軽減しつつ、教育現場で過度な学習時間を要することなく、これら「○○教育」を継続して実施するための手段として、学年通信の効果的な活用法を提案する。

3. 研究の方法

学年通信は一般的に、『生徒の校内での様子』『教職員の考え』『連絡事項』『行事予定』などの記事を中心に構成される。報告者はこの学年通信に、「○○教育」に関する内容を加える、別途専用コラムとして定期的に掲載するなど，他の教員が多大な時間を割くことなく、生徒が学年通信を読むことで日常的な学びを可能とする。

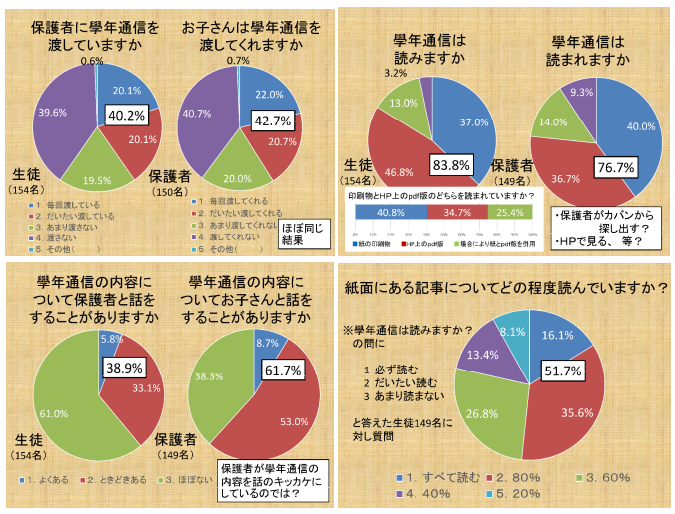
本研究において最も重要になるのが『学年通信が読まれる』ことである。そこで報告者は，学年通信の制作において読み手である生徒の学年通信に対する興味関心を高めるため、紙面を一覧性・網羅性に富んだ日刊紙に酷似させながら多種多様な記事で埋め尽くし、文章においては口語調かつ漫画的表現を多用するなど工夫した。また、生徒だけでなく保護者にも読む機会を増やすため、学年通信は紙媒体の配布だけでなくホームページからも閲覧可能とした。



資料１ 学年通信と教育コラム

4. 研究結果

本研究実践における学年通信の効果検証は，生徒および保護者が学年通信の紙面をどの程度読んでいるか、どのような内容の記事を中心に読んでいるか等をアンケート調査することにより行った。その結果、生徒の学年通信に対する高い読書結果が得られた。また、保護者においても紙媒体とホームページからの閲覧の併用ができるため，高い読書結果が得られた。自由記述回答においては，生徒・保護者共に学年通信に対する高い興味関心を示す結果が得られた。



資料２ 生徒・保護者アンケート結果

※2024年7月（対象生徒が2年次）実施
回答者数 生徒154名 保護者150名

5. 考察

今回の実践研究により、旧来からの媒体である学年通信においても、紙面の内容や記事の表現法を工夫することで、生徒の学びの補填となる可能性が示唆された。ただし、「○○教育」のすべてを学年通信により完結することは現実的ではなく、教員の「○○教育」における負担軽減のための事前事後学習に用いるなど、その活用法を今後検討していく余地がある。